



パラオだより

第2号

一か月経過！



パラオの地方での生活が始まり、あっという間に一か月が経過しました。ホームステイ先のシャワーは水しか出ない上、日中暑いの夜になると肌寒くなる気温の変化についていけず、かぜをひいてしまいました。村の人たちはかぜをひくと、タイレノールという薬をのみ、アロスカルド（写真左）というお粥を食べてしのぎます。先生もそのパラオ式でなんとか体調を治しました。赴任後すぐ慣れない環境で病気になる隊員はパラオでもほかの国でもたくさんいますが、たいていの場合、時間が経てば環境に慣れていきます。人間の体ってすごいですね！

地域と文化

太平洋戦争の跡が残る村

私の赴任地には太平洋戦争時に使われた日本軍の遺産がたくさん残っています。先週、その中の一つ「零戦（ぜろせん）」の墜落現場を見てきました。今度この写真を使って、平和についての授業をします。

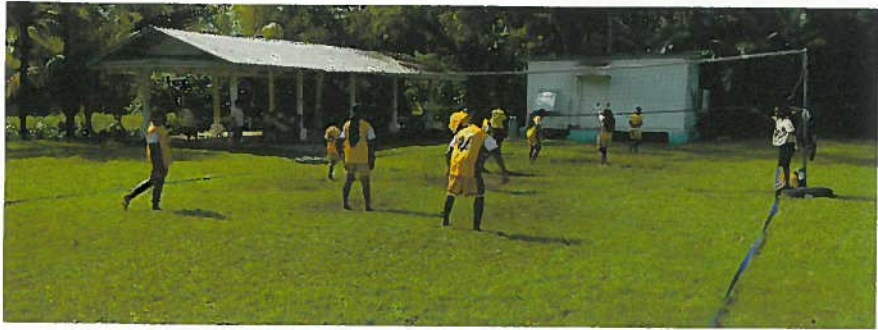


キンローホーシ

勤労奉仕が「キンローホーシ」とそのままパラオ語になっています。パラオに住んでいる日本人たちで隔週土曜に海岸沿いのごみ拾い活動をしており、先生もそれに参加してきました。たくさんごみを拾えました！

小学生にはバレーがブームです。

高学年の授業でバレーボールをしています。学校間での大会が近いため、みんな本気で集中しています。休み時間、放課後、時間があれば校庭のバレーコートで学年を問わず集まってみんなですべてをしています。先生も時々まざってやっていますが、みんなどんどん上手になっていっています。授業でバレーをしない低学年の子どもたちも、上手なお兄さんお姉さんに、教えてもらい上達していっています。土日にビーチに行くときやつぱりそこでもビーチバレーしている子どもたちがいます。



Q&Aコーナー

パラオに行って一番びっくりしたことは何ですか？(Kさん)

そうですね。低学年の子ども達でさえ、パラオ語と英語の両方を上手に話していることです。メディアや家族の影響もあり、パラオ人は早い段階からバイリンガルになるようです。先生も負けじと英語とパラオ語の勉強を毎日頑張ってます

今月のパラオ語

Bo mdengchokl !	Morrengs !	この2つは よく学校で 耳にします。
ボンデンオクル !	モレングス !	
座りなさい !	静かに聞きなさい !	